

3. 福原・畑中周辺 (C)

この調査地区は、南東側の山地から北西に向けて広がる台地と扇状地からなる地域である。福原は主に台地、畑中は主に扇状地地帯に位置する。この地域の扇状地には建設年代の古い屋根瓦の家屋が点在し、新たに造成された土地に建設年代の新しい住宅が立ち並ぶ。台地側には建設年代の古い家屋が県道 57 号線に沿って建つ。被害状況は、建設年代の古い建物や納屋の傾斜、一階部からの倒壊が目立つ。C 地区南側地域では、地表面に断層が現れており、県道 57 号線を横断して右ずれが生じている。C 地区北側地域では、台地側の被害よりも顕著な様相を呈しており、屋根瓦のある建設年代の低い建物の倒壊が散見される。一方、造成地に建てられた新しい住宅街は、外見からはほとんど無被害のようである。これらの新旧建物は非常に近い位置になることから、新しい建物の耐震性能が優れているためと推察される。また、この扇状地の北側に位置する氾濫平野の木山川にかかる橋（木山中学校南側）が崩壊している。また、近傍の堤防表面には縦クラックが複数確認できる。

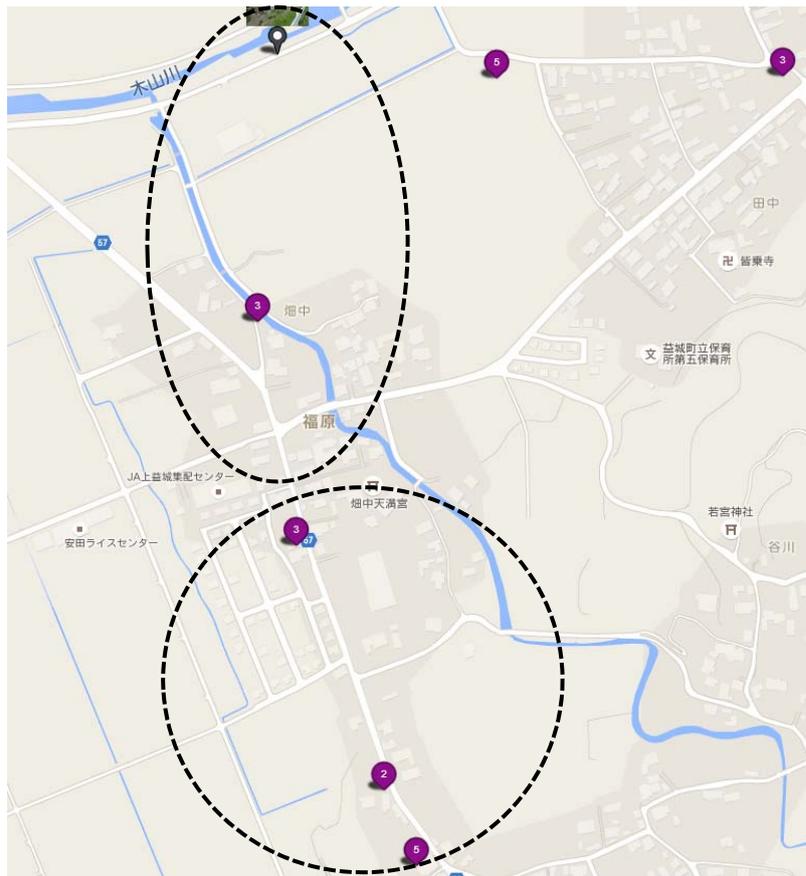


図 地震被害の調査対象地域と写真撮影地点（数値は各地点の写真撮影数）

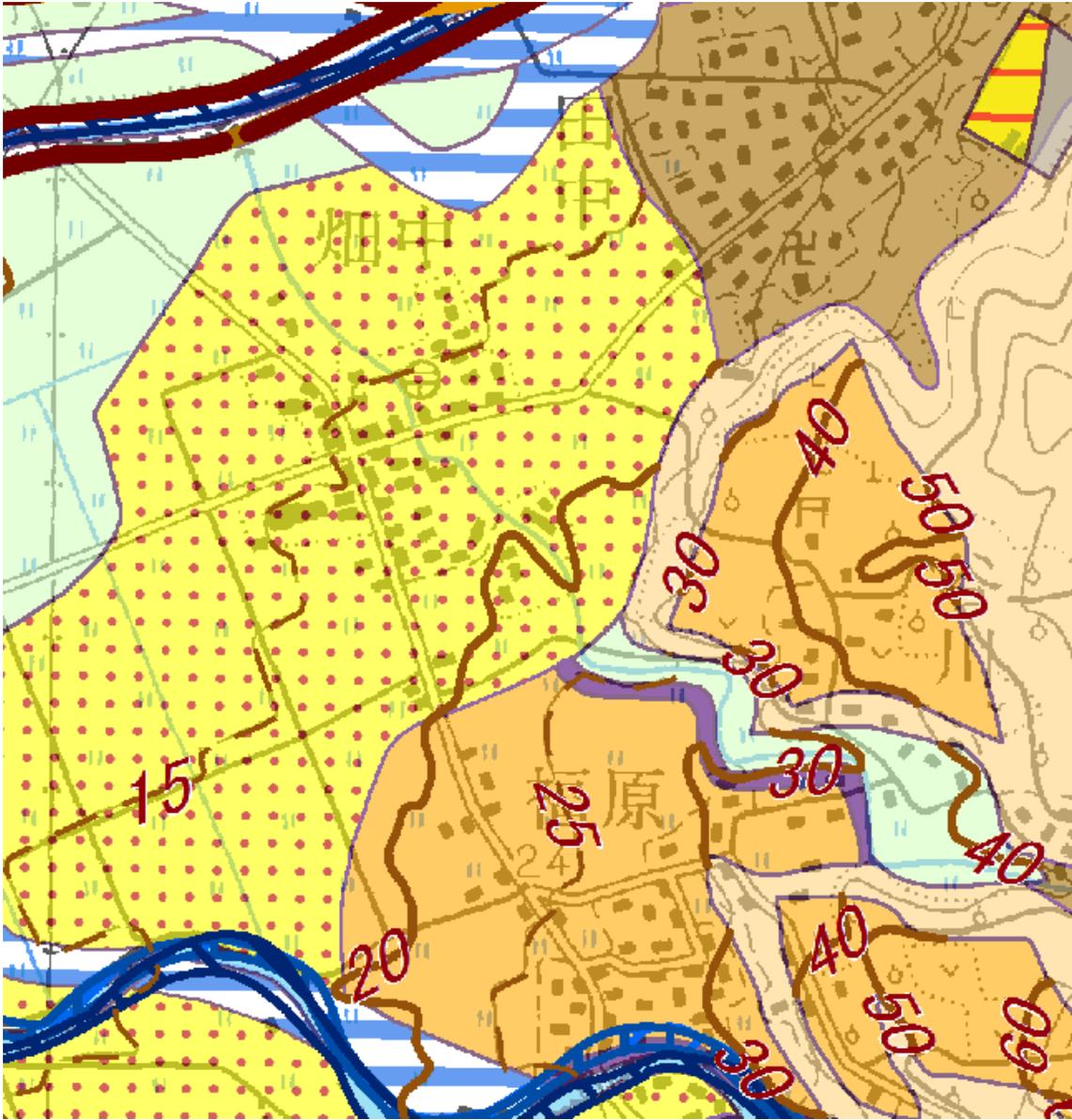


図 調査 C 地区の治水地形分類図（平成 22 年 3 月作成 国土地理院）

• C地区南側地域（台地方面）



・ C地区北側地域（扇状地側）



